



# Die Szenen aus den vier Jahreszeiten Japans

日本の美しい四季の情景

## 春

日本人にとって桜の花は、春の到来を告げる特別な花と申せます。桜は3月末から5月にかけて、日本列島を北上しながら咲いて行きます。野原には黄色い菜の花が咲き、空には鯉のぼりが泳ぎ、そして稲田には水が張られて稲を植える季節となります。

## 夏

6月には雨期を迎え、水路には日本らしい菖蒲（あやめ）の花が咲き乱れます。そして小川ではホタルが夜空に飛び交います。木立では蝉の声が鳴り響き、暑い夏を迎えて海水浴のシーズンとなります。

## 秋

秋は収穫の季節、天の恵みに感謝してあちこちの村々で秋祭りが始まります。秋の空気は澄み渡り、十五夜の月を楽しむ季節です。そして山々は赤や黄色に一面に染まり、紅葉を求めて行楽に出かけます。

## 冬

大陸からの寒波で厳しい寒さが続き、場所によっては数メートルの雪が積もります。それでも、北の北海道と南の沖縄では気温差が40～50度になる日もあります。新年を迎える正月には全国各地の神社では、大勢の初詣客で賑わいます。



故郷を主題にして、春・夏・秋・冬の日本の原風景をメドレーで歌います。なお、これらの歌は1896～1912年ごろから全国の小学校の唱歌として歌いはじめられたものです。



## ふるさと

日本人の心の原風景とも言える素朴な農漁村の姿は、今も各地に残っています。日本人の誰もが「ふるさと」の歌を歌うとき、心を和ませ、ときには勇気づけられ、ときには涙を浮かべて昔を懐かしむという、たいへん詩情あふれる歌です。

兔追いし かの山  
小鮎釣りし かの川  
夢は今も めぐりて  
忘れがたき 故郷

如何に在ます 父母  
恙なしや 友がき  
雨に風につけても  
思い出ずる 故郷

志を はたして  
いつの日にか 帰らん  
山は青き 故郷  
水は清き 故郷



春



夏



秋



冬

